

CLOUDY

白い街

どこかの国のどこかの街角に立っている。
見覚えのある風景のようだけれど、どこだかちとも思い出せない。
道はまっすぐどこまでも通じている。多くの人が僕に気づかず通りすぎていく。
だれもがうつむき、忙しそうに早足で過ぎ去っていく。みな、沢山の用事をかかえているのだろう。
見上げると街は白く、空も白い。すべてが白く平らでのっぺりとしている。
ユトリロの絵のように規則正しく並ぶ白いビルは、切り絵の舞台装置のようだ。
急ぎ足で立ち去る人々は影絵のように実体がない。
切り絵の舞台の裏側には実は本当の世界があるのに、だれかがわざと隠して見せないのだ。
白い空を見上げると、みるみるうちに黒く重い雲が立ち込めてきた。
雨をたっぴりと含んで垂れ下がっている。雲は、どんどん降りてきて白いビルにまでとどいている。
ついにビルのてっぺんは完全に雲でおおわれてしまった。もうすぐ地面にまで降りてくるのだろう。
降りて来てみると、黒いと思っていた雲はふわふわと綿菓子のように白い。
街はすっかり雲の中に埋もれてしまった。時々、雲の切れ目から道行く人や街のウィンドゥが見えている。
僕はそんな様子を眺めながら楽しくなってきた。まるで雲の上に浮かんでいるように体が軽い。
雲が流れるようにふわふわと歩いていくと、急ぎ足で通りすぎていく人が雲から出たり入ったりする。
霧のような雨が降り出した。空からも地面からも右からも左からも、あちこちから霧のシャワーが舞ってくる。
だんだん何も見えなくなってきた。
雨宿りしようにも、雲の中にいるのだからどこで雨宿りしたらいいのかわからない。
街はどうなったかな。あんな切り絵みたいな街は、雨に濡れて溶けて消えてしまうんじゃないかな。
雲はますます白く濃くなってきてきたようだ。
それに、とても重い。足も腕も重くなってきて雲に押しつぶされそうだ。
…だんだん雲が晴れてきた。なにかが変だ。なにかもがのっぺりとして、動かない。
もう僕の体はぜんぜん動かない。街も人も静止したまま動かない。
僕はいつのまにか動かない絵の中に入ってしまった。



Information

ミルクホールのティタイムに、夏の新メニューとして甘い花の香りのハーブティが加わりました。タンポポの根、ハイビスカス、ローズレッド、ローズマリー等10種類以上ブレンドした綺麗なピンク色のハーブティ。頭がすっきりして、美容と健康にも効果あり。疲れたり、イライラした時にもどうぞ。

ハーブティ Ice or Hot ¥600

internet

<http://www.milkhall.co.jp/>

ミルクホールタイムスは、インターネットのホームページで掲載しております。メッセージボードへの、ご意見ご感想、身近な面白い情報等お待ちしております。

COLUMN

鎌倉の猫事情 第九話

無論、その耳の黒い子猫はミルクホールで大変な歓迎を受けました。こう言うのはなんですが、人間だって猫だって、たとえば猿だって熊だって子供のうちはなんだって可愛いものです。私の父に言わせれば、人間も動物も、子供が可愛いのは親ばかりでなく大人に大切に守ってもらうためだそうです。人間だって動物だって可愛いものは大切にせずして危害を加えたりしないものです。そのために、神様が可愛らしく創ったそうです。なるほど、言われればそうです。大きくなって守ってもらう必要がなくなると、どんどん可愛くなくなるわけです。しかし、このゲーニと名づけられた耳の黒いちっちゃな猫がちやほやと可愛がられたのは、そう長い間ではありませんでした。

前号でお話したように、まだ足もふらふらしたよちよち猫のくせにご飯を食べようとする根性は見上げたものでした。三重県から鎌倉への長旅を終えて、はじめて、我が家に降り立ったゲーニ君は、始めは目を白黒させていましたが、本能というものでしょうか、出掛ける前に用意しておいたプラスチックのトイレと水、餌のお皿を設置した、これからの彼の領分というべきスペースを探し出してよちよちと近づいていきました。そして、用意されたおかがご飯を頭を振り振りわき目もふらず食べはじめたのです。はっきり言うとお腹がへっているわけがないのです。車の中でも、古田さんが別れ際に持たせてくれたお弁当の他に私のおにぎりを横取りしてさんざん食べた

のですから、それでも、彼は食べています。その調子で、それからのゲーニ君は毎日毎日食べ続けたのです。何が好きというよりご飯をあげればご飯を、アジをあげればアジをひたすら食べるのです。

私は、毎日魚屋さんに通って小アジを買ってきては頭から包丁でたたいて細かくしてあげました。その結果、みるみる内に大きくなっていきました。1週間たってみると、倍くらいの大きさになっているのです。1週間ごとに倍倍と大きくなっていて、一ヶ月くらいで子猫らしさは消えていました。けれど、あれほど歓迎されたのに、皆からちやほやされなくなったというのは、子猫時代が短かったというだけの理由じゃありません。

実は、この子猫がとんでもない乱暴ものだったのです。

_____ to be continued
Wanted

鎌倉の猫事情を愛読して頂いている方へ、重大なお知らせがあります。毎号お話に登場しているゲーニ君の2世が6月26日に誕生しました。ミルク色の可愛い元気な赤ちゃん猫が6匹です。この子達の飼い主を募集しています。猫をもらって下さった方にはおまけとして、ミルクホールのチーズケーキがついています。ご希望の方ご連絡下さい。 0467-22-1179 子猫係まで

